



みんなの思い出の味を 守り続けたい

高橋利枝さん(76)
山形県・米沢教会

つきたての熱い餅に、年季の入った手つきで餡を次々と包んでいく。この白く柔らかい「あんびん(大福)」が、山形県東置賜郡高島町にある創業六十七年の和菓子店「おばこや」の名物。添加物を使わない昔ながらの味が人気だ。女将の「はっちゃん」こと高橋利枝(本名:初子)さんは、「子どもの頃にばあちゃんやお母さんと買いに来たな、つて楽しい記憶を思い出せるように、みんなの懐かしい味を守りたい」と語る。実際に、「やっぱりこの味でない」という常連客はもちろん、進学や就職で県外に出た若者も、帰省のたびに足を運ぶ。

おばこやのもう一つの名物は、はっちゃん自身だ。誰にでも親身に寄り添う人柄を慕って、常連客は店に来るとまず、「はっちゃん、来たよー」と声をかけ、話し込む。毎日、店に寄って心の内を話すのが日課の人もいる。よく相談に乗っている大学生が、「この子の悩みも聞いて

あげて!」と、友達を連れてきたこともあった。町の人気者のはっちゃん、実は、本誌連載中のマンガの、思いやり溢れる主人公のモデルでもある。こうした人となりは、平坦でなかった人生で培われたのだろうか。十代半ばで父と長兄、妹を相次いで交通事故で失い、十五の年から店に立って母を支えてきた。立正佼成会との縁は、米沢教会のサンガ(同信の仲間)に導かれた亡き父が結んでくれたもの。事故で命を落とす、わずか数か月前のことだった。

「その後も、弟の借金や夫(徳至さん・79)の事業の倒産、自分の大病と、いろいろあったの。だからこそ、人の力になりたいと思えるんだよね」
出来たてのあんびんは、むっちりした餅と塩気のきいた餡の取り合わせが、絶妙だ。シンプルながら奥深いこの味わいが、はっちゃんの人生とその人柄に重なる。



おばこや
〒992-0351 山形県東置賜郡高島町大字高島 3653-1
電話 0238-52-0652



*立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
9月1日から上記ウェブサイトでもこの記事がご覧になれます。